

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 長野 】

学校名【 池田町立高瀬中学校 】

1 実践テーマ	I・II (III)・IV (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	・2学年生徒 71名、教職員 10名 ・保護者及び地域の方 4名程度
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (ダイバーシティセミナー) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・パラリンピックやパラスポーツを題材に、様々な角度から経験談、実体験談を伺うことを通して、障がいや共生社会について一緒に考える機会とする。
5 取組内容	ダイバーシティセミナー ① パラアスリートの加藤正さんを講師にお迎えし、パラリンピックやパラスポーツを題材にした教育プログラムを実施  ② 車椅子バスケットボール体験を実施 

6 主な成果	<p>(1) 生徒が共生社会実現に向けた基礎的な考えを身につけてきている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度2回実施したダイバーシティセミナーで3名の講師に出会い、今年度は加藤正さんと出会った。本校の生徒、教職員は、障がい者スポーツを身近に感じるとともに、健常者と障がい者が混じり合って生きていくことに対する理解が深まってきている。 ・どの講師も必ず「挑戦」を口にする。ダイバーシティセミナーは、失敗を恐れない、失敗を糧にして成長していく校風を育む、強い追い風となっている。 <p>(2) パラスポーツが身近になった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度ダイバーシティセミナーのボッチャ体験をきっかけに、校内に「ゆるスポ部」が発足し、ボッチャ等のスポーツに取り組んでいる。本校は現在ボッチャセットを6組も保有している。今年度は、異学年の交流もねらいつつ「校内ボッチャ大会」を実施の予定。今後は地域も巻き込んで「町内ボッチャ大会」を企画したり、各種ボッチャ大会に出場したりしていきたい。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染を防ぐために、全校ではなく2学年のみで実施した。2学年は年度当初より、地域で働く方々を講師にキャリア学習「ワークビジョン講座」を開催していたので、学年としてはダイバーシティセミナーとワークビジョン講座のコラボと位置づけた。 ・会場は昨年度に引き続き、町総合体育館を使用した。このようにしておくことで、今後も地域の方が参加しやすいし、セミナーの進行等を町教育委員会に担ってもらい、教職員は運営に携わることなく参加できる。 ・県障がい者スポーツ協会が、車椅子を10台用意してくださり、男子10名、女子10名、職員10名が実際に車椅子バスケットボールを体験することができた。実際に体験することで、車椅子バスケットボールは健常者、障がい者の関係なく楽しめることへの理解が深まった。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナ感染を防ぐために、地域の住民に呼びかけることはしなかった。町の教育関係者4名が参加し、ダイバーシティセミナーの重要性を再確認してもらった。共生社会の実現に向けて、せっかくの機会を地域にさらにアピールしていきたい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツやパラアスリートがさらに身近な存在になったのは、昨年度からの取組の成果である。さらに、パラピピックの結果や様子に注視して、生徒の学習に生かしていく。 ・来年度もチャンスを見計らってダイバーシティセミナーを開催したい。